

## Y01a IAU 戦略計画の日本における理念実装への課題と考察

縣 秀彦 (国立天文台)

国際天文学連合 (IAU) は、2018 年 8 月にウィーンにて開催された第 30 回 IAU 総会において IAU 戦略計画 (IAU Strategic Plan) 2020-2030 案を全会一致で承認した。この計画では IAU 活動として 5 つの目的が設定されており、それらは (1) 研究者の活動・交流の推進、(2) 天文学のインクルーシブな発展、(3) 社会発展のための天文学利用、(4) 天文学をすべての人々に、そして (5) 初等中等教育に天文学を である。100 年前 (1919 年) に (1) を目的に設立された IAU が社会のための国際学会と変貌していることに日本天文学会員も注視すべきであろう。

実際、IAU は 2019 年度予算の内訳として、研究 (出版、IAU シンポジウム等) が 30 パーセントなのに対し 42 パーセントを天文学の教育・普及に支出しており、知識のための天文学のみならず、開発のための天文学、社会における天文学と社会のための天文学等を志向していることが窺える。さらに IAU 戦略計画 2020-2030 では、4 つ目の組織 OAE (Office of Astronomy for Education、教育のための天文学推進室) の設置を盛り込んでいる。

このような国際的な動きの中、国際競争力が高まった日本の天文学の価値と使命を議論するとともに、日本の天文学コミュニティはどのように開発、教育、社会に今後寄与することが可能かを考察する。

注: IAU 戦略計画 2020-2030 (日本語版) は、IAU 及び日本天文教育普及研究会のウェブサイトから PDF 版を入手可能